

### ③ 本人への指導援助

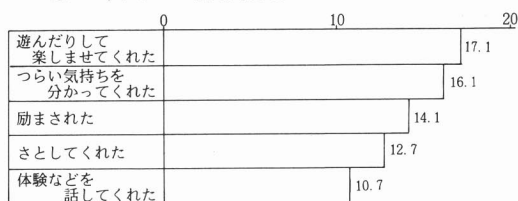


図10 児童からみて効果がみられた指導援助（複数回答）

本人への指導援助では図10から、身近にいて遊んだり気持ちを分かちあげたりすることが効果的である。更に上手な「励まし方」「論し方」を工夫して、様々な対応による指導援助が大事である。

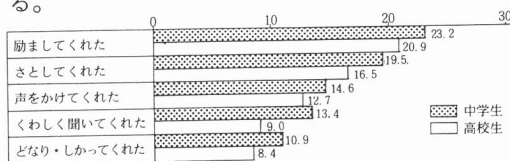


図11 生徒からみて効果がみられた指導援助（複数回答）

また、図11から、「励ます」ことは、生徒の気持ちを軽くし、勇気づけ、情緒を安定させることにつながるので効果的な指導援助のポイントといえる。また、「論す」ことも効果的である。

更に、日常さりげない気軽な言葉かけもラポール形成と情緒の安定のために効果的である。

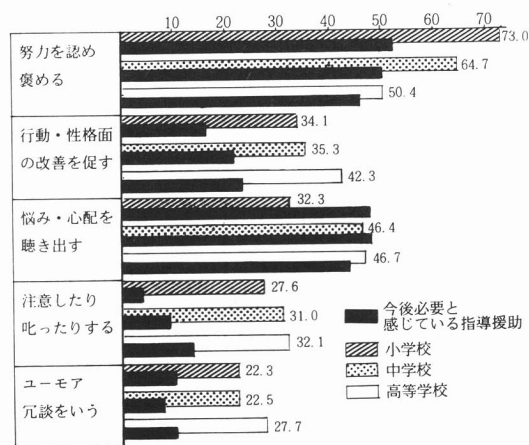


図12 教師が実際に行った本人への指導援助内容（複数回答）

注 教師が実際に行った指導援助 小学校, 中学校, 高等学校, と今後必要と感じている指導援助 。以下図13~15も同様。

図12から、さらに校種を問わず「努力を認め褒める」「悩み・心配を聴き出す」など共感的なかわりが効果的である。また、「ユーモア・冗談」でかかわることも大切なことの一つである。

児童生徒と教師の両面からみると「褒める」「励ます」というかわりが予防的な指導援助の大事な要点となってくる。

### ④ 家族への指導援助

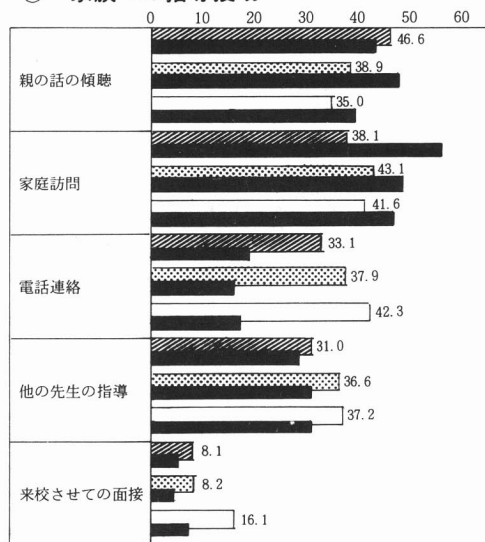


図13 教師が実際に行った家族への指導援助内容（複数回答）

家族に対しては、家庭訪問などを通して家庭からの協力を求めることが大切である。そうした中で親の話をよく聴き、その心情を受け止め、情緒を安定させるかわりが大事になってくる。また、直接、教師側から出向いて、親とともに考えようとする姿勢が大切である。

さらに、他の先生の協力を得ての指導援助も効果的である。

### ⑤ 学級全体への指導援助

6 ページの図14から、教師の思いやりのある気持ちを基調にして、「席順やグループ編成への配慮」「集団への誘い」「思いやりの行動の紹介」などを発達段階に応じて指導援助する必要がある。また、温かい雰囲気や学級集団作りをし、日常、教育相談的な授業をすることも大切である。